

平成30年度 第1回臼杵市総合教育会議 会議録

開催日時	平成31年1月11日（金） 10時00分開会（～11時50分閉会）																				
開催場所	臼杵市役所 全員協議会室																				
出席者氏名	<p>臼杵市長 中野五郎 臼杵市教育委員会 委員 垂井 美千代 委員 野上 美智子 委員 神田 岳委 委員 渡辺 義弘 教育長 斎藤 克己</p> <p>（事務局）</p> <table border="0"> <tr> <td>秘書・総合政策課長</td> <td>平山 博造</td> <td>（教育委員会事務局）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>秘書・総合政策課 総括課長代理</td> <td>竹尾 幸三</td> <td>教育総務課長兼学校教育課長</td> <td>甲斐 尊</td> </tr> <tr> <td>秘書・総合政策課 課長代理</td> <td>姫野 孝子</td> <td>社会教育課長</td> <td>大戸 敏雄</td> </tr> <tr> <td>秘書・総合政策課 主幹</td> <td>狭間 隆則</td> <td>学校教育課 総括課長代理</td> <td>口石 愛</td> </tr> <tr> <td>秘書・総合政策課 副主幹</td> <td>花崎 成巳</td> <td>教育総務課 総括課長代理</td> <td>麻生 幸誠</td> </tr> </table>	秘書・総合政策課長	平山 博造	（教育委員会事務局）		秘書・総合政策課 総括課長代理	竹尾 幸三	教育総務課長兼学校教育課長	甲斐 尊	秘書・総合政策課 課長代理	姫野 孝子	社会教育課長	大戸 敏雄	秘書・総合政策課 主幹	狭間 隆則	学校教育課 総括課長代理	口石 愛	秘書・総合政策課 副主幹	花崎 成巳	教育総務課 総括課長代理	麻生 幸誠
秘書・総合政策課長	平山 博造	（教育委員会事務局）																			
秘書・総合政策課 総括課長代理	竹尾 幸三	教育総務課長兼学校教育課長	甲斐 尊																		
秘書・総合政策課 課長代理	姫野 孝子	社会教育課長	大戸 敏雄																		
秘書・総合政策課 主幹	狭間 隆則	学校教育課 総括課長代理	口石 愛																		
秘書・総合政策課 副主幹	花崎 成巳	教育総務課 総括課長代理	麻生 幸誠																		
欠席者	なし																				
会議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 今年度の取組状況について（報告） <ol style="list-style-type: none"> （1）学力向上の要因について <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書専門員の現状と効果、課題 ・ 小中一体教育の成果と課題 （2）体力の向上について <ul style="list-style-type: none"> ・ 臼杵市の現状、肥満割合について （3）特別支援教育・いじめ対応・不登校支援について <ul style="list-style-type: none"> ・ 臼杵市の現状について （4）臼杵大好きうすきっこの育成について <ul style="list-style-type: none"> ・ 臼杵市の未来を考える中学生と市長の意見交換会について （5）臼杵市の未来を創る担い手像検討会議の設置について 3. 意見交換 4. 閉会 																				

1. 開会 事務局

本日進行をさせていただきます秘書・総合政策課の平山と申します。どうぞよろしくお願
いします。平成 27 年度から新たに総合教育会議を開催いたしまして、本年度第 1 回目の開
催となります。なお本日より事前にお送りした次第と本日の次第が若干変更となっております。
ご了承いただきたいと思ひます。それでは次第に沿ってすすめていきたいと思ひますが、本
会議は公開の会議として位置付けております。本日 1 名の傍聴の申し出がありますので、聞
いていただきたいと思ひます。それでは平成 30 年度第 1 回臼杵市総合教育会議の開催にあ
たりまして中野市長からご挨拶をいただきたいと思ひます。

市長

みなさん、おはようございます。遅まきながら改めてあけましておめでとうござひます。
平成 31 年の初春を健やかにお迎えのことと思ひます。今年は 5 月 1 日から元号がかわりま
して新しい時代に入ります。自分が親の世代を考へてみますと、3 つの時代・明治・大正・
昭和を生きるというのはえらい年寄りだなと思ひておりましたが、考へてみれば 5 月から
我々は昭和・平成・もうひとつと、我々もその時代に入ってきたなと改めて痛切に感じるよ
うな時代の流れを感じますが、気持ちは若く頑張っていきたくと思ひております。

教育委員の皆様には平素から臼杵市の教育充実の発展にご尽力いただいておりますことに
関しまして改めてお礼を申し上げたいと思ひます。昨年を振り返ってみますと、いろんなど
ころで地道な努力が積み重ねられていると我々も理解しております。例えば具体的なかたち
であらわれて、我々にも知らせていただいていることと言ひますと、南中と南小の連携によ
る読書活動、川登地区の青少年育成会が川登小学校と一体となって地域をあげての教育活動
の取り組み、この 2 つが文部科学大臣賞をいただいたということ、そしてまた臼杵小学校が
言葉と教育という観点からみても素晴らしい取り組みをしているということで博報賞をいた
だいたということ。いろんなどころで大きな成果が出てきていると思ひますが、ひとえに教
育委員の皆さん方のご尽力の賜物だと思ひております。これも単純にできたわけではありま
せん。例えば読書のまちづくりとか中小一体の取り組みとか、地道な努力が重なってでき
ていると思ひますし、学力も徐々に上がり、15 歳で義務教育を離れるときにはしっかりと
自立心と基礎学力をつけて送り出せる体制が実績としてもできていると胸を張って言えるよ
うな状況になってきていると思ひております。これからも今日いろいろ報告というかたちで
出させていただひますが、より一層充実発展させるためにはいろいろな課題がある、そう
いうテーマについてそれぞれ担当から報告いただきながら、それを踏まえてよりよい教育、
そしてまたこの教育大綱の理念に基づいたところにどうしたら近づいていけるのかというこ
とを皆さんと話し合ひて、今年度の残りの 3 か月、そしてまた来年度の事業に繋げていけれ
ればと、思ひております。

私も 1 月 4 日の職員の仕事始めの時に、いろいろな話をさせていただいたのですが、仕事
に職員が取り組むうえでは、2 つの進化ということを考えてほしいと言ひました。1 つは深
める深化、もうひとつは進む進化ということであります。厳しい環境、条件の中で、今やっ
ていることを深掘して、もっともっと中身の濃いものに仕上げていくためには何が足りな
いか、どうすればいいのかということと、これからの将来を見通したときに、ステップアッ
プしていくような取り組みはどうすればできるのかを考へて実践していけば、市民の期待
に、子ども達の期待に応えられるのではないかと思ひております。

今、臼杵市は自分達が取り組む行財政の仕事に対して、市民がどのように評価しているの
か、2,000 人の無作為抽出の調査を毎年行ひ、これからも充実発展させるといふもの、これ
はもっと充実させたほうがいいんだけど今はレベルが低い、これはもうちょっとスクラッ
プしてもいいのではないかなど、いろいろな意見をいただきながら、それを事業、予算にいか
していこうということをやっております。そのなかでひとつ臼杵市の行政の評価につきまし
て、少し前までは 67~68%がよくやっているという評価だったのですが、この頃 70%を超
えてみな頑張っているといひいただひておりますし、これからもずっと臼杵が好きか、臼杵に住

みたいかという、84～85%の人達が、臼杵がいい、臼杵に住みたいといってくださいます。これも少しづつ右肩上がりになっているということは各課各班のいろんな人達がいい臼杵をつくりたいということで、チーム臼杵で取り組んでいる成果が出てきているのかなと思っておりますし、今日はそのなかで教育のほうで大いに責任をもって頑張っていたいでいる皆様方と意見交換し、またそれを次の制度にも活かしていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。早速ですが、今日の会議につきまして、市長から進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

市長

それでは私のほうから進行させていただきたいと思えます。現在の取組の状況として、本日は学力向上の要因、体力の向上、特別支援教育・いじめ対応・不登校支援、臼杵大好きうすきっこの育成、臼杵市の未来を創る担い手像検討会議の設置、そしてまたそれぞれにつきまして担当課から現状、現在までの報告をいただき、意見交換をしたいと思えます。5つに分けておりますが、説明をそれぞれ済ませて、それから全体の意見交換をさせていただきたいと思えますので、それぞれよろしくお願いいたします。まずは学力向上の要因についてからどうぞよろしくお願いいたします。

学校教育課

おはようございます。学校教育課で取り組んでいることについて説明させていただきたいと思えます。もう皆さんご承知の通りだと思えますが、この臼杵市学校教育指導方針を各学校のほうに示しまして、学校教育としては教育の充実ということを行っております。これを作るにあたりましては平成30年度の教育委員会の方針を教育長のほうに示していただきまして、その中で学校教育課の方針、社会教育課の方針、文化・文化財課、学校給食課等をそれぞれの教育委員会部局がそれぞれ方針を立てまして、教育委員会全体が一丸となって連携を取りながら、教育委員会の方針を達成するためにやっております。その中でも学校教育課だけでは近年学校教育の充実ということがなかなかできません。そこは家庭教育の問題であったり、教育ネットワークの繋がりという部分であったりしますので、学校教育課と社会教育課の力も借りながら、一緒になってやっているとあります。学校教育課と社会教育課が連携をしながら、この学校教育指導方針に基づいてやっております。29年度から特に芯の通った学校組織をもとにしたチーム学校の実現ということで取り組んでおりますが、先程市長の挨拶にもありましたが、臼杵市に住みたいという市民を増やすというチーム臼杵で取り組んでいるという話がありました。そのなかで、教育委員会としましても、芯の通った学校組織をもとに、チーム学校として、みんなで臼杵の教育はいいね、子ども達も臼杵で育って学んでよかった、と言えるようなチーム学校の実現を目指してやっております。

その柱としましては信頼される学校づくり、開かれた学校づくり、安心、安全で快適な学校環境の充実、この3本柱にもとづいて、臼杵っこの学力向上プロジェクト、臼杵っこの体力向上プロジェクト、臼杵っこ輝きプロジェクト、臼杵らしさをいかした、臼杵市にしかできない子ども育てプロジェクト、という4つのプロジェクトを立て、実施をしているところであります。本日の報告事項としましては、この臼杵っこの学力向上、体力向上、臼杵っこ輝きプロジェクト、この臼杵っこ輝きプロジェクトの中身が特別支援教育、いじめ対応、不登校支援というものになりますので、この3つについて私のほうから説明させていただきたいと思っております。

それでは学力向上の要因についてというところではありますが、事前に配布させていただいております資料に30年度の学力の状況ということで、全国学力学習状況調査と大分県学力定着状況調査について、折れ線グラフで示させていただきました。こちらのほうには記入していませんが、平成28年度に県内でよくない結果をとってしまいましたので、そこから

授業改善というところで教職員にも真剣に取り組んでいただきましたし、子ども達も一生懸命学力を向上させるために頑張っています。その成果としまして、課題がまだありますが、すべての項目で偏差値、全国平均の正答率を超える偏差値 50 を超えるという結果を導くことができました。特に小学校 5 年生の大分県学力定着状況調査の偏差値としましては、平成 30 年度は 7 位まであがってきております。この 7 位といいましても、小数点を除きますと同率の 4 位となりますので、学力はあがってきております。大分県学力定着状況調査の中学校 2 年生の部としましては、大分県で 3 位になっております。全国学力学習状況調査では、小学生は 6 年生が受けますが、市町村ランキングとしましては 6 位、そして中学 3 年生は 5 位という結果が出ております。そのなかでも大分県学力定着状況調査の中学校の英語ですが、知識が大分県で 1 位、活用が 2 位という英語力がついてきております。また国語につきましては、知識で 2 位という結果が出てきております。これにつきましては、読む力、書く力が育ってきていると分析しております。この読む力、書く力、表現する力になりますが、ここは臼杵市が読書のまちづくりに取り組んできた成果ではないかと考えております。これにつきまして、次のページをお開きください。学校図書館専門員についてという 2 ページ目からありますが、ここから臼杵市読書計画の推進、読書活動推進計画にもとづいて平成 23 年度から第 1 次計画、そして平成 28 年度から第 2 次計画ということで、臼杵読書のまちづくりに取り組んでおります。この読書のまちづくりに取り組んできた内容としまして、1 次計画では学校図書館専門員の全校配置、それから学校図書館にエアコンの整備というハード整備のほうを主にやってきました。2 次計画のほうでは、そのハードを活かして、具体的にソフトという面でどういうことをやっていくかということで、授業改善にも学校図書館を使う、そして図書館専門員が具体的に読書を好きになる子どもを育成する、という取り組みを行ってきました。特に今年度新たに取り組んできたことは、臼杵っこ文庫という臼杵市内の子ども達に、この時期に必ず読んでほしい本だったり、臼杵にゆかりのある人が書いた本だったり、臼杵市の歴史ある人物について書いてある本だったり、そういうのを読んでほしいという臼杵っこ文庫というのがありますが、この臼杵っこ文庫の充実をはかってきております。この臼杵っこ文庫の選定にあたりましては、学校図書館専門員がビブリオバトルを実際に行いまして、学校図書館専門員の資質の向上を図る、そして皆さんでビブリオバトルをしながらこれを実際に子ども達に伝えていく、そして本の選定をする、そして臼杵っこ文庫の充実をはかる、このようなサイクルでやっております。これにつきましては、学校図書館専門員だけではなく、市立図書館の司書と一緒に、研修を年 6 回やりながら活動をすすめているところであります。学校図書館を見ていただきますと、掲示物も充実してきておりますし、図書館の本の読書量も増えてきているという掲示もありますので、見ていただけないのかなと思います。その本の貸し出し冊数の経年経過を 4 ページに示させていただきます。先程言いましたビブリオバトルの様子は 4 ページの一番上のほうに写真を少し掲示させていただきました。学校図書館の本の貸出冊数は、年々小学校では増えてきております。中学校では、取り組み始めた 22 年に比べれば、増えてはきておりますが、横ばい状態というところがあります。県の読書計画のほうでも、中学生の一人当たりの読書量をいかに伸ばしていくかというところが課題になっておりますが、県と同じように臼杵市においても課題であると認識しております。しかし、今中学校のほうでは、部活動など、いろんな活動が盛んに行われておりますので、なかなか読書の時間を取ることが困難であるというところがあります。そこで、社会教育課と連携をしまして、保育園幼稚園、小学校に上がる前の子ども達が本を好きになるよう保育園幼稚園にも臼杵っこ文庫を設置しまして、そこで本好きな子どもを育てようという活動を現在しております。これらの取り組みを継続してきた結果、先程の市長の挨拶の中にもありましたが、今年度博報賞の受賞もありましたし、南中、南小の読書活動の取り組みということで、文部科学大臣賞を取ることもできました。また、個人の大分教育の日のエッセイでは、中学校の部で最優秀賞を受賞しましたし、

全国中学校人権作文コンテストの大分県大会におきましても様々な賞を取らせていただきました。ここに掲示しておりませんが、12月末に表彰がありました臼杵市民読書感想文コンクールの上市長賞も南中の生徒がとったというところで、書く力、表現する力が一人一人の子どもに根付いてきたのではないかと考えております。これにつきましては、社会教育課の協育コーディネーターで読書活動の専門の方を設置しておりますが、学校図書館専門員の設置とともに、この協育コーディネーターの力がすごくあると県からも評価されておりますし、私達もそのように感じております。学校図書館専門員だけでは繋がるというところではできませんので、学校図書館専門員と市立図書館の司書を繋ぐ、そして活動を根付いたものにするというところでの協育コーディネーターの働きはすごく大きかったと感じておりますので、今後もこれを継続して、本好きな子ども、そして本を好きになった子どもが自分を表現していく力をつけられるよう育てていきたいと考えています。

2つ目の項目としまして体力・運動というところに入っていきます。これにつきましては、大分県の体力が九州1位であることが新聞報道されました。九州1位になった大分県の中で、臼杵市が何位を占めているかというところは公表されておられません。県のほうにも問い合わせをしましたが、そこは公表できないということで、臼杵市がどういう状況であるか、何位であるかというところがわかりませんが、臼杵市内の体力測定の結果を見ていきますと、現在緑色で示しているのが平成30年度の結果となっております。この結果を見ますと、例えば小学校男子の反復横跳びというのは、飛びぬけて臼杵市の状況は良い、20mシャトルランに対してもとても良い結果、そして立ち幅跳び、というところが良い結果であります。50m走や握力、ハンドボール投げというところはまだまだ改善をしないといけないところがあります。例えば50m走がなかなか伸びないという原因の一つとして考えているところが、臼杵市の肥満傾向児出現率というところを示させていただいております。肥満傾向児出現率をみますと、グレーで書いているのが臼杵市になりますが、29年度をみますと11歳が臼杵市では肥満傾向児出現率がすごく高い、女子で言えば11歳、13歳がすごく高いというところがあります。これを中学校の先生方に聞きますと、やはりぼっちゃり君が多い。そしてそのぼっちゃり君の体力測定の結果をみるとやはり劣っている、こういう結果が著明に表れている、そういうこともありますのでこの肥満の改善というところも含め、食育の取り組みも併せて体力の向上を目指さないといけないという課題を抱えております。これに関しましては、今年度から子ども子育て課を中心に、小児生活習慣病対策プロジェクトを立ち上げまして、子ども子育て課の保健師や事務職員、保険健康課の保健師、事務職員、そして学校教育課、社会教育課、教育総務課の職員が入り、そこに医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健所等の専門機関の専門機関も入りまして、臼杵市をあげた取り組みをはじめております。今後につきましては、臼杵市内の生活習慣病の罹患率が高いという傾向もありますので、子どものころからの生活習慣病予防というところで学校給食課も一緒になって、食育指導をやりながら、体力向上にも努め、改善をはかっていく取り組みをはじめたところであります。

3つ目としまして、臼杵輝きプロジェクトと臼杵市では名付けてありますが、これが特別支援教育の充実・いじめ・不登校の対策支援であります。児童生徒数に対する報告の割合と書いてありますが、これが特別支援教育の対象者となる子どもがどれくらいいるかをグラフで表したのになります。支援を必要とする子どもが25年度に比べて29年は増えている状況があります。30年度の状況を見ますと、中学校の通級指導を必要とする子どもが随分増えてきている状況にあります。中学校までは通級指導と指摘を受けても、保護者がなかなか理解を示さず、就学支援委員会にかけるに至らないという子どもがいるというところも課題としてあります。中学校にあがると、今まで思っていた以上に子どもの成績が伸びず、子どもに不安を感じる保護者が増え、就学支援委員会にかけて、先生と保護者が相談をした結果、やっとそこで保護者が子どもの状況を理解し、そして支援に繋がるということが増えている

傾向があります。2月に調査を開始しますが、平成31年度の支援を要する子どもは何人ぐらいいるのかが今のこの時期に決定されていきます。来週また就学支援委員会がありますので、そちらのほうで来年度の支援を必要とする子どもが出てきます。今、特別支援員さんという見守りをやっていたいただいている方ですが、市内の小中学校に27名勤務していただいております。通級指導教室や支援学級に属していない支援学校適の子どもや支援学級適の子どもでも支援を要していない子どもの見守りや、危険の防止をしていただいております。その対象となっている子どもとしましては、約200人弱と想定しております。

次に臼杵のいじめについてです。年末に全国のいじめの件数が新聞紙上で出ましたので、いじめが多いのではないかと錯覚をされてる方もいるかもしれませんが、以前はいじめゼロを目指して、でしたが、今はいじめ見逃しゼロを目指して、というところで、子どもが嫌だ、いじめられた、嫌なことをされたという訴えがあれば、いじめとカウントして見逃さないようにしよう、重大事項に繋がらないようにしようと未然防止に力をいれております。これが平成27年度からの取り組みになっておりますので、いじめについてはそこで認識がかわったため、数値が大きくかわっております。いじめ見逃しゼロとなった27年度からは、100人を超える市内の小中学校からの報告が上がってきております。中学校に関しましては、自分で申告をできる年ですので、大きく増えるということはありません。一番大切なのは、嫌だと感じている子どもが友達の中でうまくいってるかといういじめ解消がどれくらいすすんでいるかですが、小学校では29年度は83%、これははっきり持ちこしをしたものもありますが、学年が変わればクラスが変わってよくなったという子どもも含まれています。いじめ見逃しゼロと解消を目指して、今学校で頑張っただけで対応していただいているところがあります。また、本当に子ども達がいじめを受けているというところもありますが、最近では、保護者同士がうまくいかず、それが子どもに伝達してしまって、子ども同士の関係が築けないところも少しずつ増えている傾向があると感じていますので、保護者の理解、そして子どもの支援、両面からの支援が必要となっております。今回、この会場に野上委員がいらっしゃいますが、スクールソーシャルワーカーとして学校現場に入っただけで、家庭と学校を繋ぐというところでご尽力をいただいております。

そしてもうひとつが、臼杵っこの臼杵らしさをいかした、臼杵にしかできない子ども育てプロジェクトですが、これにつきましては、農泊や、臼杵っこ検定、里帰り授業などの取り組みを継続しております。

そして今年度は臼杵市の未来を考える中学生と市長の意見交換会ということで、西中では実施していただきました。これに関しましては、説明者をお知らせしていただきたいと思っております。以上私からの説明を終わります。ありがとうございました。

事務局

皆さん、おはようございます。4番5番については、秘書・総合政策課から説明させていただきます。まず4番目の臼杵大好き臼杵っこの育成についてで、臼杵市の未来を考える中学生と市長の意見交換会についてです。これについては、皆さん方にも既に報告があるのでご承知のことかと思いますが、再度ここで説明をさせていただきます。もともと臼杵市では子ども市議会というものが開催されておりました。それが28年度まで小学校と中学校が交互で子どもの市議会というかたちで取り組みをしておりまして、それがずっと続いておりました。昨年度は、選挙権が18歳からということもありまして、高校生市議会というかたちにかえて開催をしていました。それをうけて、今年度再度中学生に対して子ども市議会を行うのかどうかという検討の段階で、子ども市議会というかたちでは、生徒会の一部の子ども達だけが参加するという、そういったかたちになるのではないかと懸念されておりましたので、今年度は中学生全体で何か考えることができないのかな、中学生の時からみんなが臼杵のことを考えて、臼杵を好きになって愛着を持っていただけるようにはできないのかなということで、今回西中のご協力をいただきまして、市長と意見交換会というかたちで10

月 17 日に開催することができました。スケジュールとしても、学校側のスケジュールに合わせ、無理のないかたちで実現をしようということで、3 時限目 4 時限目を使いまして、3 時限目は ICT を活用した社会の授業を市長・教育長に見ていただきました。その後生徒さんが社会科の授業と総合的な学習の時間を使って、持続可能なまちづくりのための施策は何ができるのか、自分たちは何があったら大人になっても白杵に住み続けたいと思うのか、そういったことに対して現実的な考え方を、夢をみるだけではなくて実際にできるであろう施策、現実的なことを踏まえた考え方の中で施策を考えてそれをプレゼンテーションというかたちで発表しました。研究発表の内容としては 6 つの班、生活（楽しく安全に暮らせるまちづくり）、スポーツ（県大会などに積極的に出場し、最新の施設も充実させる）、災害（安全なまちづくり）、教育（小中の一体化、中学校の合併）、雇用（空き家で起業する人の経費を助成）、子育て（引っ越しや家を購入するときの料金が安くなる）、こういった施策を考えたことに対して、みんなの前でプレゼン及び市長はじめ我々が一緒にいる中で、体育館でプレゼンテーションをする、というかたちにして、その後市長・教育長から意見をいただきました。開催の内容については皆様も既にご承知のことだと思うのですが、104 名の 3 年生から感想をそれぞれいただいております。皆さん、改めて勉強してみて白杵のことがよくわかって、さらに白杵のことが好きになった、ということが多く意見として出されておりました。そうした中で、今回の取り組みについては、白杵市のほうとしても本当に有意義な体験であったととらえております。そのなかで、メリット、デメリットですが、実際デメリットはありませんでした。メリットとしては、市としては、中学生の意見を幅広く聞くことができたし、白杵市として、今人口減少に歯止めをかけるという取り組みの中で、いかに定住人口を増やすか、まずは白杵市を中学生の頃から好きになってもらわないと、大人になって大分に仕事を見つけても、白杵市から通おうとか、よそに出てたとしても白杵市に戻ってこようとか、そういったことも結びつくのではないかとということで、大変重要ないい取り組みができました。それから市長の考えも聞くことができて、大変よかったという感想が届いております。学校としても、今回学校から聞いたメリットとして、学校側では今回社会科と総合的な学習の時間を使っていただいたのですが、授業の中でこれだけのことが取り組めて、さらには 3 年生全体が一緒になって取り組めたということで、学校としても生徒のレベルアップに繋がった、そういったことも言われて、授業としても無理がなく、生徒としてもレベルがあがったということでよかった、というようなことが大きく感想として述べられておりました。課題としては、せっかく今回みたいなことができたのであれば、花火のように一発で終わらせるのではなくて、継続していきたい、この市長部局と学校の繋がりを今後も発展させていきたいというような意見が、学校として出されました。こういったことを受けて、白杵市としても今後もこの意見交換会というかたちを、今回の西中と同じかたちでやるとかそういったことは考えてないんですけれども、もし中学校で受けてくださるところがあれば、一緒になってやっていきたいと、そこの特色をいかしたかたちでやっていきたいというふうには思っております。4 番については以上です。

事務局

次に、白杵市の未来を創る担い手像検討会議の設置についてご説明いたします。

この検討会議は、中野市長の今期のマニフェストに掲げる「教育長期ビジョン策定委員会の設置」に関する具体的な検討会議として、10 月 29 日に初めての会議を開催いたしました。この会議の目的として、明日の白杵市をどのような人達に担ってもらいたいのか、先人の偉業に学びながら、白杵市の未来を共に考え、市民が共有できる”人づくりの将来像”と、それを実現するための大人の果たすべき役割などを示すことを目的としております。会議の委員についてですが、委員は 20 代から 40 代までの 15 人の構成となっており、各団体の方々、三輪流白杵神楽保存会や地域おこし協力隊など文化・スポーツ・福祉・農業・漁業・事業主等から、広く子どもと関わりのある方々にご参加いただいております。現在までの取り組み状

況ですが、第1回を10月29日に開催いたしました。内容は、第1回ということで委嘱状の交付、中野市長から委員さんへ会の趣旨説明を行い、その中で、先人の知恵や行動力、勇気に学んでいく中で、これから厳しくなる臼杵のまちづくりに対して、どういう人に担ってもらえばいいのかを考えていきたい。こういう人に担ってもらいたいという意見があれば、ではそういう人にどうしたら育てることができるかということまで含めて、職場や年代がちがう人達が、学びながら、提言をいただいて、それを踏まえて市あげての体制を作り、明日の厳しい臼杵を担う人材を育てていきたい、という思いを伝えていただきました。また、近世・近代における臼杵の人物と題し、臼杵の町で暮らした偉人達の生き方を学び、先人の良いところを引き継いでいくような人間について考えるため、臼杵市歴史資料館前館長の菊田徹先生に村瀬庄兵衛・疋田不欠・岩崎陣房・吉四六さんについてご講演いただき、功績や貢献、苦しい中でも人材育成に努め、臼杵を担う人物を育てたこと等について学びました。第2回は12月18日に開催し、近代（明治期以降）の臼杵の人物（荘田平五郎・山本達雄・吉丸一昌・野上弥栄子等）についてご講演いただき、近代において様々な分野で活躍した人物が臼杵には多数存在し、大きな功績を残し、今の臼杵を形成していることを学びました。今後の予定としましては、2月・4月・6月・7月の4回開催を予定しており、2月18日開催予定の第3回、4月の第4回にて、ワークショップ形式で意見交換を行い、どのような人に担ってもらえるとよりよい臼杵になっていくのか、将来の臼杵を担ってもらう人をどのように育てていけばいいのか、を委員さんにご協議いただく予定をしております。そして、子どもから大人まで誰が見ても分かりやすい表現で「臼杵市の未来を創る担い手像4〜5か条」を制定し、広報していくこととしております。広報形式については、検討会議にて協議の予定となっておりますが、市報、ホームページ、動画の作成、図書館・公民館等へのポスター掲示、副読本等の冊子作成などを検討しております。また、最後になりましたが、本会議のコーディネーターは大分大学名誉教授の山岸治男先生にお願いしております。臼杵市の未来を創る担い手像検討会議についての報告は以上となります。

市長

それぞれのテーマにつきまして、担当者から説明いただきました。意見交換に入りますが、その前に質問がありましたら出させていただきたいと思うのですが、まず最初の学力向上の要因について、資料の説明をふまえて質問がありましたらお願いします。

偏差値は、小学校中学校ともに全国平均に達しているということで、平均以上ということですね。そして大分県学力定着状況調査では小学5年生が4位、中学2年生が3位、中学は特に英語が良くて1位、国語が2位、それは読書のまちづくりとか、図書専門員とか、読書の取り組みの成果ですね。英語が良い要因は何ですか。

学校教育課

英語がなぜここで1位2位になってきたかというところを、指導主事と分析していったら、この子達の年代から小学校での英語活動に市の単費で派遣している指導員を入れたということがわかりまして、5年生と6年生でふれることができるのですが、その学年からどうやら上がってきているということがわかりました。来年の結果も見てみないとわからないのですが、この結果もでてきたのではないかと考えています。小学校からの積み重ねかと考えています。

市長

理科はどうなっていますか。前から少し悪かったようですが、少しずつ上がってはきていますか。

学校教育課

理科は、今回は知識で10位、活用で7位となっています。依然とあまりかわってないのですが、理科の最近の出題傾向が、しっかり読んで解くというところもありますし、ICTを活用して、その手順に従ってどういう実験結果が導かれたかを回答するような設問にかわ

ってきていますので、臼杵市が今 I C T の活用に積極的に取り組んでいるということもあり、読む力ができてきたので、理科についてもしっかりと問題を読んで、解いてくれるのではないかと期待をしております。あとは、実験に力を入れないといけないと考えていますので、これにつきましても学校現場で、理科専科の先生を確保して行っていたりと努力もしていただいていますので、こういうことを継続してさらに学力向上に努めていきたいと考えております。

市長 学校図書専門員は1年で総入れ替えなのですか。積み重ねができる状態にしているのですか。

学校教育課 最長で3年というルールがありますが、なかなか応募をしてくれないという実情もありまして、一番長い人では10年を超えている方もいらっしゃいます。ですので、総入れ替えではなく、専門員として働きたいという方には、積極的に応募していただいています。ただ全員毎年という希望ではないので、少しずつかわっているというのも現状ですし、4人前後ぐらいが新しい方となっております。

市長 その中で、市立図書館と連携して、司書的なレベルアップを図る研修をしっかりと行ってください。

学校教育課 新たな図書館専門員の方は、司書の資格を持っていませんので、その方々には、学校図書館でどのようなことをやらないといけないのか、という1からすべてお伝えをしないと活動ができません。そこに関しましては、社会教育課に拝聴させていただいてます協育コーディネーターの図書の専門の人が、年度当初に全部の学校をまわるようにしておりますので、そこで繋がっているところがあります。研修につきましては、年6回、市立図書館と学校図書館専門員が合同で研修するというをやっていますので、そこもあわせて質の向上というところは取り組むことができるようになっていきます。これは去年から徹底してやってきておりますので、私も学校現場を回っていくと、学校図書館の掲示物から、すべてかわってきたというのを実感しております。

市長 小児生活習慣病の正式な名称は何でしょうか。

学校教育課 小児生活習慣病対策プロジェクトです。

市長 学校は入っていないのですか。

学校教育課 学校は入っています。小中学校から学校長代表2人、教頭会代表、養護教諭代表ということで参加をさせていただいております。

市長 前から気になっていて、皆様方がいろいろ努力しているのだと思いますが、11歳が突出している原因はわかってきたのですか。

学校教育課 なかなか厳しいです。わからないというか、いろいろな要素があるのだろうと思っています。テレビゲームやスマホやいろいろな問題が絡んでいるのですが、その年齢だけが突出してやっているという傾向でもないで、どうしてこの年代がというところですが、原因をしっかり究明していき、その対策を練っていかないといけないと思っています。

市長	遺伝子や体質的な問題もあろうし、各家庭の食生活、生活のリズムもあろうし、スポーツ活動等いろんなものが相乗的に関わってくると思われますね。
学校教育課	そうですね、社会スポーツにどれぐらい参加しているかも関与すると思いますし、家族因子的なもの、地域性のもの、いろんな因子があると思います。例えばその保護者の年代を見たときに、保護者の生活習慣病の状況はどうなのかとも関与すると思いますので、子どもの状況だけでは一概にこれが原因だとなかなか言えないという実態もあります。ただ、プロジェクトができたので、保険健康課や子ども子育て課と連携して、一緒になって原因を究明しながらやっていきたいと思っておりますし、学校給食課も入っていただいておりますので、そのなかで、学校給食のカロリーについても見直しをしていただいたり、できるところから対策をやりたいと今現在取り組んでおります。
市長	ぽっちゃりのお父さんお母さんと因果関係があるんですかね。
学校教育課	数値的に比較をしているわけではないのですが、海辺に住んでいる方は、ぽっちゃりの傾向にあるお母さんお父さんの子どももぽっちゃりの傾向があるというところで、数値的にはっきりしないので、傾向がありますとは断言できませんが、学校現場に保護者が来た時に、思う時もあると聞いているのも事実です。
市長	海辺というのは何かあるのですか。
学校教育課	北中ですね。
市長	北中でも奥のほう、海辺のほうが多いということですね。運動ではなく食なのですか。
委員	少し前に、コスモス病院でデータをとった時、生活習慣病で脳卒中等が多いのは海辺でした。やっぱり塩分ですね。
市長	太るほうにも関係してくるのですか。
委員	塩分があるとたくさん食べますから。
市長	ああ、そういう意味で。料理も濃くなるとか。
委員	魚も塩分ですから。
学校教育課	保険健康課時代に、海辺の食生活が問題になってまして、血圧の高い方や肥満の方、それも高度肥満の方が多くて、大皿に盛って皆さんで食べたりとか、味付けが砂糖と醤油で量が多いので、ここは保険健康課と一緒に考えていけないと考えております。たくさん食べるのが元気だと思っているおじいちゃんおばあちゃんも多いので、そのへんもあるかと思われます。最近学校の先生がよく言っているのが、おじいちゃんおばあちゃんはたくさん食べるのが元気だと思っているので、スナック菓子や砂糖がたくさん入ったジュースを飲む習慣が子どもについていると。はっきりそれが原因だとは言えませんが、そういう言葉も聞いています。
市長	スナック菓子とかジュースとかは、虫歯が多いということにも関係してきますよね。いろ

んな意味でこれから原因と対策を考えていなければいけませんね。

もうひとつ、いじめは数字では倍になっているが、見方で違って来たということで、実質はそうではないということですね。

他にご質問はございませんか。4, 5は教育委員の先生方にはある意味はじめての詳しい説明だと思いますが、そのことで何かございましたらお願いします。

よろしいでしょうか、では意見交換ということでざっくばらんに、これからどうすればいいか、この問題はどうか、みんなで考えようとか、いろんなことを出していただければと思います。

委員

このレジュメの中には直接は書かれてないのですが、資料の中に少しだけでてきた臼杵っこガイドについて、近年いろんな市が〇〇ガイドという子どもを対象にしたガイドを出してきました。一番の先駆者は、手前味噌になりますが、臼杵市ではないかと思っております。臼杵市が起こして、いろんなところから追いつかれていくというケースを、感じる場所があるのですが、この臼杵っこガイドがそうならないように、なお一層いろんなかたちで発展させていけたらいいなと思います。そのためにはどうすればいいか、これからの教育委員会を中心に相談をしながら発展のことを考えていかなければいけないと思います。臼杵市のことを知る、そして先程も出ましたが、未来を創る担い手のためにもこういう活動をするというのは、素晴らしい活動ではないかと思っております。なお一層発展していくように努力していきたいと思うし、市のほうにも発展するようにご協力を是非お願いしたいと思っております。

委員

第1号が文化・文化財課に採用されていますね。折々彼女が臼杵っこガイドの試験がある時に、自分が第1号で、こういうことがよかった等言っています。試験を受ける子ども達はいっぱいいますが、1回目を通る人はなかなかいないので、臼杵っこガイドはこんなに素晴らしいんだということ、実際に経験者が広めていくというのもいいかなと思います。

それから、学芸員も順次かなり誕生していますよね。だから臼杵っこガイドも学芸員も子ども達の活躍の場をもう少し広報していくといいかなと思います。野津にも野津の鍾乳洞を紹介できる子ども達がいっぱい育っていると思いますので。臼杵に来たお客さんが、爽やかに子ども達が案内をしてくれるのでよかったですと言われる。もうあれはやめてくださいという言葉はひとつもないです。そういうこともうまく活用していくというのも、いわゆる臼杵の未来づくりという点ではいいんじゃないかなと思いますね。

市長

やっぱり愛郷心というか、臼杵を愛してもらいたいということは、本当の臼杵を知ってもらわないとそういう気持ちに繋がらない。知れば愛する心も生まれるし、相関関係があると思うので、こういうのはとてもいいと思います。

もう一点、資料館に、勉強のなかで学校から行くという人は増えているのですか。

委員

増えてるかどうかはわかりませんが、行きますね。かつて総合的な学習の時間が多かったときには、よく行っていたと思いますが、総合的な学習の時間が少なくなったということもあると思いますが、学級や低学年でまとまっていくというのは聞きます。

市長

なかなか時間の制約もあるので、のべくまなく行けるわけではないと思いますが、単なる思い付きですから社会教育課中心に検討していただきたいのですが、例えば専門員は、今かなり説明能力が高い方がいるので、小中学校で、地元の教育で、大友宗麟がでそうなところになった時に、出前授業のように専門員が資料を持って学校に出向いて、ポイントだけ説明し、詳しいことはもう一度来てねという感じをすれば、関心が繋がっていくのかなと素人な

がらに思うので、検討していただけるといいと思います。

委員 学校現場と繋ぐことで、社会科と繋ぐとか、道徳と繋ぐとか、それから総合的な学習もないわけではありませんので、それと繋ぐとか、あるいは近くに行った遠足時に、そこに寄るとかとかたちは、こちらの働きかけも必要ですが、ちょっと言うだけで可能だと思いますね。

市長 臼杵藩というのは、いい資料を保存している藩なので、それを教育でいかしながら臼杵のことを知ってもらおうと、一段と関心とか愛郷心が増すかなと思っております。もしやれることがあればぜひ検討していただきたいと思います。

委員 野上弥生子も、中学生以上には読めるだろうけど、小学生にはちょっと無理という声の中で、小学校の国語の先生を中心に、野上作品をよりわかりやすく親しむため、絵を入れ、絵本のかたちにするすることで、小学校低学年が野上作品に親しんでいくということができはじめましたね。

市長 基本的に、地元の良い素材を活かしながら育っていくというのは、教育もそうですし、我々の産業振興だってそういうところがあります。今日のあさチャンの放送でも、結構それをやってくれました。あさチャンの7時45分からで、臼杵市が田舎暮らしベストランキングで二冠をとって、なんであんな田舎が人気があるのかを取材に来てくれました。それをみると、地元の素材を活かしながらそれを情報発信して、来てくださった人をみんなで温かく迎えて、1市民として一緒に臼杵を盛り立てていこうというのが伝わっているのではないかと伝えてくれました。基本的にまちづくりも人づくりもそういう意味では同じですから。他にありませんか。

委員 子ども達は本当に挨拶もよくて、他の地域に比べると、朝知らない人に会ってもよく挨拶をする子ども達だと思います。小学校に行っても感じはともいいですね。ただ、全県下どの小中学校に行っても、今、感じの悪い学校というのは少なくなりつつあります。臼杵市内は、以前のように目を伏せたくないような学校はないので、先生方がとても努力されてると思います。子ども達はいいんですが、今の総合した話の中でもそうですが、やっぱり臼杵っこガイドも何年もやってて、だんだん臼杵っこガイドを受けようという盛り上がり年々若干欠けつつあるかなとは思いますが。それはいろんな理由があると思うのですが、取ったことの喜びが、ガイドしている子達は特にありますが、取ったことの自己満足で終わってしまっているような感じがして、何かしらの良いものが表に出るような何か、ご褒美的なものとかがあってもいいのかなと思うし、先程も市長がおっしゃってましたけれども、やはり臼杵はたくさんいいものがあると。石仏もそう、竹宵もそう、下藤のクリスタルの遺跡もそうですけど、きいたら皆さんびっくりするようなものがあるのですが、なかなか広報的に表に出てなくて、やはりそれがたくさん出ることによって、子ども達の自尊心とか郷土愛とか、臼杵ってこんなすごいところがあるんだというのを、地元の人から言われて確認するのではなく、例えばマスコミとか、外から臼杵ってすごいねって言われることで、少し鼻が高くなるというか、そういうとこに力を入れることも必要なのかなと。だから僕らのまちはすごいんだと自分達で言うのではなく、外から言ってもらえる政策をすることもひとつ子ども達へのいい影響なのかなと思います。私臼杵出身ですというと、ああこんなところありますよね、あそこに行ったらこれが美味しかったですよ、臼杵ってこんなことやられてますよね、といろいろ言われることが多いのですが、それが子ども達に伝わるような何かがあればもっといいのかなと。すると子ども達はもっと知らなきゃとか、もっとこういうことを外に

向かって自慢していいんだとか、臼杵ってすごいんだと思うことがいい方向に向くんじゃないかなと思います。

市長

ちょっと外れるところがあるかもしれませんが、移住定住というところで、最終的には定住ということで、今臼杵に住んでる人達が、住み心地がいいねと、そして高齢者や子どもや、いわゆる社会的弱者と言われる人達が住みやすければ、健常者ももっと住みやすいまちなんだと言えます。さっき言ったあさチャンの取材や、この間はNHKの全国放送のあさいちで、30分くらい臼杵が紹介されました。我々臼杵に住んでる人には当たり前の世界で、外と違うというのがわからない、それをどのように伝えていくかというのが我々の大きな責任かもしれませんし、臼杵はいい素材がいっぱいあるけど、宣伝下手というところもあるので、そこをどうするかというところもあります。ただ、少しずつ成果が上がってきてるのかなと思うのが、人口のほうかと思えます。まちに本当に力があるかどうかは、人口がどうなっているかがひとつの指標になると思えます。なんとか減少に歯止めをかけるといっても、人口の社会増減のところはとりあえず施策的にもすぐに効果が出るけど、自然増減というのはなかなか簡単にはいかない。今のところ大体、年600人ちょっと超えて亡くなります。生まれるのが200人前後、人口が400人減ります。それに社会減が4、5年前までは200人ちょっと超えていたので600近く、その前は500くらいだったが、今人口減はお年寄りが多く、亡くなる人が多くて加速しているんです。もうひとつ社会増減を分析した時に、200前後マイナスの要因を見ると、津久見、豊後大野、そして佐伯、この3つをトータルしてもマイナスではないんですね。東京とか福岡も多いですけど、そこはまあそれなりに来ている人もいる。一番のポイントは200の中で大分市なんですね。大分市との差が200の中で120くらいあるんですよ。いかに臼杵で育ち、臼杵で働いてる人達が、大分市の大在とか坂ノ市のマンション等に移っていつているか。臼杵に通っても20~30分以内ですから、そういう人達が、子どもの健康、福祉、教育等育てる環境を考えたらやっぱり臼杵のほうがいいねと思ってくれればよいのですが。今年の9月までのデータを見ますと、社会増減の大分と臼杵のプラスマイナスが、30~40に縮まっているんですよ。ただし、15歳以下はプラスになっている。15歳以下の子どもで大分市に出た子どもよりも、臼杵市に来た子どものほうが多いということです。保育所の問題とか、例えば給食センターが28品目のアレルギー対策をしているとか、移住の助成政策とかいろいろなこと多いのかなと思っています。せめてプラスマイナス0まで持っていきたいと思う中で、やはりひとつポイントは、子ども、健康と福祉と教育、臼杵市で育てても十分いい子を育てる環境になっていると、べつに大分でなくてもいいねという宣伝もそうだけど、実績をつくっていけば、そんなにいわなくても増えるのかなと思っているので、そういうことをやっていきたいということと、ぜひ教育委員の皆さんに知っていただきたいのは、ひとつ大きな課題となっている合計特殊出生率です。これは女性が生涯にわたって何人子どもを産むかというものであって、3年の平均で毎年出てくるのですが、実は18市町村の中で臼杵市が最低なんです。今まで別府が最低だったんですけど、最新では臼杵市が最低になっていて、今子育て課等いろんなところが原因を解明しようとしております。

ひとつ考えられるのは、生まれる子どもを考えたときに、早めに結婚した、つまり20代前半でした人達は、2人3人と子どもを持っている人が多いんですよ。うちの場合、一番問題なのは30代で独身が多いということです。結婚以前の人達が多いということと、もうひとつは、若い女性に聞くと、ビルの中での事務的な仕事に憧れている人が多く、そういう職場というのはIC企業等で、臼杵にはほとんどないんです。そうすると、結婚以前に出ていく。なので、実質的に出生率もガタッと落ちることがあるので、この点をどうするかというのが大きな課題となっております。来年度の予算に向け、いろんな課を集めて検討し、何かひとつ踏み出す施策をしないと、じり貧になっていくので。さっき言いましたけれ

ども、出生率は一番低くなっているけれど、昨年の実績を見ると、外から来た人達266名のうちに、30代よりも若い人が70%占めている。だからお年寄りも移住してくださっているが、若い人も多い。そのうちで15歳以下の人が74名きてるんです。だから、出生率が下がった部分を来た人でプラスマイナス0ぐらいになっているんだけど、来る人も多いが生まれる人も多い環境をどうつくっていくかも大きな課題だと思っております。ただ、結婚をすすめて、たくさん生まれる環境をつくることと同時に、都会に出ていく若い人達の助成を、どのように白杵の中で暮らせる環境をつくるかをやらないと減少は止まらないと思っております。白杵は大分市の隣市のため、特に若い人を中心に大分市へどんどん引っ張られるので、どのように住みやすい環境を作っていくのかが大きな課題であると思っております。将来子どもを大学に、こういう子どもを育てたい等は、白杵で育てても十分基礎学力をつけてくれる実績があがっているというのが大きな要因になってくると思うので、一緒になって取り組んでいければと思っております。

委員

変な質問ですけども、白杵市の昼の人口と夜の人口は大きく差があるのですか。つまり、大分に住んでいる人が、白杵に仕事に。白杵に仕事がないからというのだけれど、大分に家を建てて白杵に通ってきているのか、白杵に家を建てて大分に仕事に行っているのか、白杵市の昼の人口と夜の人口はどうなんですか。

市長

そのデータは持ってないので、感覚的にという話になると思うのですが、交通安全の時に、末広の交差点に立っていますと、7時45分頃から8時くらいの間、旧坂バイパスにかなりの車がきますね。若い人を見てると、たぶん一部は津久見に通っているようです。ジェイデバイスに聞くと、600人いるとすれば、白杵市内に住んでる人が3割、後は大分、津久見など周りから来るという。もともと周辺部から就職している人もおもしろし、白杵で就職していて、そっちに出る人もいる。以外にフジジンさんもフンドーキンさんも半分いないのではないかなど。地元で生まれ育って、地元の企業に勤めてて、独身とか、結婚した比率で言ったら、地元の人は半分もいないかなという感じですかね。

委員

難しいと思いますがそこに働きかけるというのは。

市長

非公式には言いますが、社宅を作ってくださいとか、そっちにも波及するんだろうということではなかなか。条件整備をお願いしますと言われるとなかなか難しいんですが。それで今回白杵市が、若い人向けのアパート・マンションを造ってくれた人に、一部屋につきいくらかの助成金制度を新たに作ったんですよ。そうしたら3月までに、その制度を使って、積水ハウスとセキスイハイムが、独身とか所帯持ちの人達向けに38室、白杵市内にアパート・マンションを造ってくれることになりました。需要を考えたら市浜校区というから、市浜小学校、西中が多くなるのではないかと。そういうところで、ひとつのダム効果、大分の大在・坂ノ市まで行かなくても、こっちのアパート・マンションに入れば少しはとまるかなど期待しながらやっているの、状況を見ていきたいと思っております。

委員

子どもの姿からご報告するとすれば、赤い羽根募金に、今年初めて保育所の子ども達がHIヒロセ前に赤い羽根募金の委員の人達と一緒に出たんですね。そしたらちっちゃい子ども達がお願いしますという効果が相当ありました。それから高校生のユネスコクラブの生徒達が10名サンリブに出て、高校生はさすがにマナーもいいし非常に感じがいいので、車に小銭をとってきてまで入れてくれるという微笑ましい光景があったりして、高校の校長先生が、ユネスコクラブはボランティア活動を含め、いろいろな活動をするクラブですから、ぜひ体験をさせてあげてくださいという声まであって、部の先生も顧問の先生もいらっしやっ

てという光景が今年ありました。

それから小中学生の音楽会で、本当に特色のあるいろいろな取り組みをしていて、しかも会場が市民会館なので、とてもよかったです。これはもうちょっと市民に広く宣伝をして、子ども達の姿を見に、音楽を聴きに、ぜひ来てほしいと感じました。

それから作文コンクールにいくつか関係をしているんですが、特にこの何年間かで、読書の効果とか授業形態が変わったとか、いろんな成果が表れてると思うんですけど、深く読む、深く考える、そして自分の言葉にかえて表現するという力は、私は確実についてきていると思います。例えば授業にしてもですけど、深く読んで、そして考える。読んで考えたことを自分の言葉で表現していく。これはもう弁論大会においても、本当に感じられるなど。これもまた市民の人達にぜひ宣伝をして聞いてもらいたいと思います。

それから弁論大会は、各校持ち回りでやっているんですけども、今年は5・6年生がきました。去年からはじめて、去年は6年生がきて、というようなかたちで、市内大会のときですけども、それをきっかけにある中学は、今年自分は会場校ではなかったのに、去年会場校でそういうことをしたので、今年は6年生にまたきてもらいましたと、いわゆる小中連携のかたちもできつつあるかな、というふうに思います。以上感じたことです。

委員

私は臼杵の担い手のことなんですけど、学校の現場に行ってみて、すごく頭のいい子から、お勉強が嫌いな子まで、いろんな子どもがいます。障害がある人達は、いろんな方法で、社会に出て助けていく方法がある。お勉強が嫌い、成績は悪いけどとても性格はいいとか、手先は器用だとか、お年寄りには優しいとか、そういった子ども達が中卒だったり高卒だったりするときに、仕事とどうやってマッチングさせてあげたらいいのかなと考えます。障害手帳を持つてる人は障害者の雇用で国からお金が入りますよね、助成があるわけなので。何かこの辺の人達が結局アルバイトとかになってどんどん仕事をかわっていき、そして仕事が無くなっていくと大分のいろんな仕事に行ってしまう。この辺の人達の徒弟制度のような、アルバイトじゃなくて正社員になるような取り組みを、今は建設業の親方さん達が引き受けてがんばってくれています。そういったところに助成があるとか、飲食店で働く子ども達の雇用主さんにちょっと助成してあげるとお給料の分がだいぶいいと思うんですよ、定着していくというか。この子ども達って結構ヤンチャはヤンチャなんですけど、元気なので、この人たちが仕事について、子どもを産んでというような、そういうしくみをどこかでできないのかなと、今はほんとに雇用主さんに頼っているだけなので。私は現場ですごく思っています。

委員

関係あるのですが、先程市長と語る会の話の中で、メリットとして、臼杵に生まれてよかったとか、臼杵市にずっと住みたいとか、自分の住んでいる臼杵市を誇りに思うなどの感想がずっと出てきた。とっても大事なことだと思うのですが、私はそれよりもっと大事なのは、一旦は県外へ出るけれども必ず戻ってきたいと、そこが一番大事ではないかと思うのですよ。それがなかったら井の中の蛙というか、この中だけで、ここはいいぞとずっと思っているばかりで、一回外に出ると、あれ、このほうがよかったじゃないかというような、そういうことにならないような話し合いが、未来を創る担い手検討会の中でされてもらいたいと思うし、市あげて、一回は外に出たけれども、やっぱり臼杵がよかったなと思うような臼杵をつくっていく、そういう臼杵にしていけたらいいと思うんです。外の世界を知らずに自分のところがいいと言っているばかりじゃ発展性は全くないと思うし、よそと比べてはじめて自分のところがいいというようにならないと、なかなか発展はないかなと思うんです。そういう話が検討会議の中でされていかないかなと思いました。

市長

そのへんのところはありますよね。だから別にずっと居れという意味でもないですが、志

がいろいろある子どもがあるから、志を達成しようとする、市内にはないというような仕事もあろうと思います。また、そういう人が帰りたいというときは、Uターン、Iターンの制度は作っておりますが、基本的には仕事との絡みでくるので、今のような帰りたいけど白杵にそんな仕事があるかと言われると、ちょっとつらいところもありますが、Jターンでいいけど、仕事は大分まで行くというところもあると思うし、野上先生の言われてることも気持ちちはわかりますが非常に難しいんですよね。例えば公共交通の問題があるわけです。過疎地域は、お年寄りになると免許証はないが、お医者さんにも買い物にも行かなければならない。バスは乗り手が少ないから赤字になる。しかしやめられても困る。結果的に我々が、やめてもらわないために公金を入れていくわけです。それはいいのですが、我々からすると、本来私企業だから経営努力をしてほしいのです。お客が少なくなると市がお金を出してくれる、となると自己努力をしなくなってくる。そのへんのところがあるので、経営者にお金をあげて給料をあげてもらおうというよりも、本人が自己努力をしないといけないと思うのです。

委員 経営者という大きいところではなくて、今、木を伐採する、枝打ちする人も少ないとか、石垣を組む仕事人がいないだとか、もう少し個人の人のことです。そういう人にかないのかな、マッチングできないのかなと思うんです。そしたら伝承していくものとかもあるんじゃないかなと思ったりするのですけど。

市長 若い人達が腰を据えて職人の世界で仕事をする、大工さんでもいいし左官さんでもいいし、職人の世界というのは本当に努力して一流の腕を持てば、サラリーマンの二倍も三倍も所得が得られるのは当たり前だと思うので。ただそこまで努力できるかという、今3年間で大卒でも3、4割1回離職すると言われてるので、職人の世界は10年はやらないと話にならないところがあるので、根性というか精神力が必要だと思います。

委員 他県で大型ハウスをやっている人が、明らかに人手が足りないの、再犯防止と絡めて、犯罪を犯した人をそこで雇い、ハウスで栽培する楽しさを教えて、というのをしても、7人のうちの2人は願う姿になっていったけど、なかなか難しいですなあということをしてましたね。

市長 話がとんで悪いのですが、今移民法が出てきているじゃないですか。これから一番いけないと思うのは、労働力がないから、外から外国人を入れて、安く使おうみたいなね、これは本人にも悪いし、国と国の間でも大変将来禍根を残すことになってくるので、入れる限りにおいては日本人と同じ仕事をしてもらうけど、待遇も同じなんですよと。そして本人が仕事をマスターして日本で所帯を持ちたいといえば日本人として受け入れていくというようなそういう大きな仕掛けの中で入れていかないといけないので、そこをきちんと整備しなければ大問題が起こるんじゃないかと心配するんですが。

委員 今外国人労働者は、うちの会社にもいるんですけど、日本人よりもスキルがあって、日本人よりも給料を出さないと雇用できないかたちになって、まあそこを同レベルもしくは同じ水準で認めましょうなので、わからないこともないんですけど。

市長 時間がさがってきました。何か発言があればどうぞ。なければ終わりにしたいと思います。その前にちょっと聞きたいんですが、そろそろ高校入試も締めに入っていると思うんですけど、今のところいいんですが、地元の希望生徒は、白杵高校には半分くらいいるんですか。今のところいいです。

学校教育課

この間の人材育成のときの数値が今の一番最新情報で、今ちょうど18日までに報告をあげるように、ということで出していますので、その数があがってきたら報告したいと思えます。ただ、7月の時の調査結果をみると、臼杵高校を希望している生徒さんは多かったんです。8月に学校開放という体験入学日があったんですが、それに出席した人も過去最高の人数が行ってくれたんですが、その後、やはり臼杵高校以外を希望している子どもが増えてきているというのが、今回の実態でして、最終的な面談で、遠くに行くより臼杵市内に行きなさいとなるかもしれませんが、今現在、学校から声を聞いているのは、臼杵高校で詰め込むより、津久見高校で少人数でしっかり教えてもらうほうがいいと言っている保護者と子どもが増えていて、そうすると今度津久見高校でだめだったということもあるので、学力的には臼杵に行けるんだから臼杵についてというような調整をしているということも聞いてますので、その辺がどういうふうになるか、今はそういった状況になっています。

市長

できるだけ地元で残っていただけるとありがたいのですが。

それと、教育委員の皆さんは知ってると思うのですが、ずっとお願いしてたんですけど、3月のダイヤ改正で、臼杵ー津久見間が、特に通学生が帰るときに2時間空くので、1本間引きされてた分を要望したら一応できることになって、1時間おきで前と同じくらいの時間帯のところでできました。ただし、中に一本入れてくれる電車が、佐伯から臼杵までです。だから津久見高校の生徒が臼杵駅まで来て、臼杵駅で3分後くらいに出る大分行きに乗り継ぐことになるのですが、途中で乗り換えるというのはしようがないかなと思っています。そういうかたちなんで、特に臼杵から津久見に行く人、津久見から臼杵に来る人、大分から来る人、以前ぐらいの利便性になってくるのかなと思います。最後は教育長にまとめをお願いします。

教育長

大変お疲れ様でした。まとめということですが、いろいろご意見いただきましたし、市長のほうも住み心地一番のまちづくりということですがけれども、それに合わせるように教育委員会でも子ども達がしっかり育てられるまちをめざしてる。ちょうどさっき配ってくれた「臼杵っこガイドの脈々と」という記事ですが、一番上の段の最後に、ガイド1期生だった女性職員、目的の一つである「人づくり」も芽吹きを時期を迎えている。やっとなんて10年経って、こうした臼杵っこガイド、先程もいろいろもうちょっと考えていく時期ではないか、というご意見もいただきましたが、私自身もそう考えています。ちょっとやり方を考えていきたいと思えますし、こういった取り組みがやっとなんて芽吹きだしたということなんで、教育というのはやっぱり10年先20年先を考えて取り組むものだと私は思っておりますので、そういった意味でも今しっかり基盤を作っていきたいなと思っております。いろんなご意見、本当にありがとうございました。いかしたいと思えます。お疲れ様でした。

事務局

長時間にわたりありがとうございました。以上を持ちまして平成30年度第1回総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。